

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 吉 水 清 孝	3	水	3
◆ 講義題目	ヴェーダから叙事詩へ				
◆ 到達目標	ヴェーダ時代から西暦紀元前後までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、古代聖典ヴェーダの宗教と仏教などの出家宗教との対比を軸にして理解すること				
◆ 授業内容・目的・方法	ヴェーダ、仏教、スムリテイ（叙事詩・法典）の3分野を中心に、古代インドの世界観と人間観の変遷を以下の順序で解説する。				
	01 序・中世以降のインド概説	09 仏教の戒律			
	02 インダス文明とアリア人侵入	10 仏教教団と古代王朝			
	03 ヴェーダ文献と神話	11 アビダルマと大乘仏教			
	04 ヴェーダ祭式	12 二大叙事詩			
	05 祭式をめぐる思弁	13 叙事詩の思想			
	06 ウパニシャッド(1)：祭式の内面化	14-15 インドの法典			
	07 ウパニシャッド(2)：因果応報思想の成立				
	08 ジャイナ教と仏教の開祖				
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと。参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 吉 水 清 孝	4	水	3
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教				
◆ 到達目標	西暦紀元後からイスラーム教徒侵入時代までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	中世初期インドに成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。				
	01 古代思想の要約	07 仏教の僧院と国際交流			
	02 時代背景の変遷：古代から中世へ	08 仏教知識論(1)：認識論と論理学の基礎			
	03 バラモン教学(1)：二元論（サーンキヤ）と瞑想（ヨーガ）	09 仏教知識論(2)：論理学の応用			
	04 バラモン教学(2)：語の意味と文の認識（文法学・ミーマーンサー）	10 仏教思想とバラモン教学との対立			
	05 バラモン教学(3)：聖典論と社会意識（ミーマーンサー・法典註釈）	11 ヒンドゥー教(1)：ヴィシュヌ神とその化身			
	06 バラモン教学(4)：ウパニシャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）	12 ヒンドゥー教(2)：シヴァ神と女神たち			
		13 ヒンドゥー教(3)：ヴィシュヌ教の神学			
		14 ヒンドゥー教(4)：シヴァ教の神学			
		15 中世初期インド思想のまとめ			
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと。参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 概 論	2	教 授 桜 井 宗 信	3	火	1
◆ 講義題目	インド仏教史概説—その1—				
◆ 到達目標	釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>釈尊（紀元前5世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。</p> <p>講義の主なトピックは次のようである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：釈尊の生涯と主な事蹟 2：釈尊の思想 3：初期仏教教団の成立と展開 4：アショーカ王と「法」 5：「説一切有部」を中心とした部派の思想 				
◇ 成績評価の方法	レポート [100%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。				
その他：最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 概 論	2	教 授 桜 井 宗 信	4	火	1
◆ 講義題目	インド仏教史概説—その2—				
◆ 到達目標	インドにおける大乘仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>インド大乘仏教史の概略を理解し、『般若経』等の初期大乘経典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乘仏教思想を代表する二大学派の内容を、基本的な専門用語の理解にも留意しながら把握することを目指す。</p> <p>講義の主なトピックは次のようである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：大乘仏教の出現と初期大乘経典の成立 2：ナーガールジュナと初期中観思想 3：中期中観派の思想 4：瑜伽行唯識派の思想 				
◇ 成績評価の方法	レポート [100%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。				
その他：「インド仏教史概説—その1—の既習者であること」を履修の原則とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 基 礎 演 習	2	教授 吉 水 清 孝	3	火	4
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献入門				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教の代表的聖典を読み、あわせてサンスクリット語の語形活用と構文に習熟する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Bhagavadgītā (『神の歌』) は、マハーバーラタ大戦争に臨んで悩める王子アルジュナにヴィシュヌ神の化身クリシュナが教示する対話篇であり、現代においても安心立命を得るために復唱される、ヒンドゥー教の代表的聖典である。今学期はその第6章から第8章までを講読する予定である。毎回出席者にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。第1回：Bhagavadgītā の成立；第2回：VI.1-10 アートマンの克服；第3回：VI.11-20 ヨーガの次第；第4回：VI.21-30 意欲の沈静；第5回：VI.31-40 黄金律；第6回：VI.40-47 ヨーガからの脱落者；第7回：VII.1-10 物質原理と精神原理；第8回：VII.11-20 ヴァースデーヴァ；第9回：VII.21-30 神への信と知；第10回：VIII.1-10 神を念ずる行為；第11回：VIII.11-20 神への到達；第12回：VIII.21-28 祖道と神道；第13回：二道説の起源；第14回：ウパニシャッドの二道説；第15回：今学期のまとめ。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) 出席 [30%] ・ (○) リポート [70%サンスクリット語未修者対象] ・ (○) その他 (授業での貢献度) [70%サンスクリット語既習者対象]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。上村勝彦 (訳) 『バガヴァッド・ギーター』 (岩波文庫) を各自で用意すること。				
その他：	サンスクリット語の基礎を習得していることが望ましいが、サンスクリット未修者でも十分に理解できる授業を行う。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ ー リ 語	2	非常勤講師 西 村 直 子	3	水	5
◆ 講義題目	パーリ語入門				
◆ 到達目標	サンスクリットの知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。Geiger, A Pāli Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pāli Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。平常点 (60%) および試験 (40%)				
◇ 教科書・参考書	Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader (大学に必要な部数が揃っているが、自分で持っても後まで役立つ)。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する				
その他：	初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。				

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ リ 語	2	非常勤 講師 西 村 直 子	3	金	3
<p>◆ 講義題目 パーリ語講読</p> <p>◆ 到達目標 パーリ語入門で習得した能力を基に、比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法</p> <p> 文法事項、シンタクス、仏教用語などについて、繰り返し復習確認しながら、AndersonのReaderから抜粋して読む。ジャータカ、ダンマパダ、ミリンダパンハーなど、言語と内容の両面を大切にして取り組む。</p> <p>◇ 成績評価の方法 授業時間中に示される能力と取り組み方による。平常点（60%）および試験（40%）</p> <p>◇ 教科書・参考書 Geiger-Norman, A Pali Grammar, D. Anderson, A Pali Reader（大学に必要部数が揃っているが、自分で持っても後まで役立つ）。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。 簡単な文法概要を作ってコピーを配布する</p> <p>その他： 初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チ ベ ツ ト 語	2	教授 桜 井 宗 信	3	月	4
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法 I</p> <p>◆ 到達目標 (1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法</p> <p> チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。 教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのような訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 ○出席 [70 %] ○授業中に示される理解度 [30 %]</p> <p>◇ 教科書・参考書 藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学仏教史研究室に備え付けがある）</p> <p>その他： 教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	教授 桜井宗信	4	月	4
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。本期は第15章の途中より読み始める予定。 「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 ○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Tāranātha: 『インド仏教史』(コピーを配布する)</p> <p>その他: 「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
インド学各論	2	教授 吉水清孝	5	火	2
<p>◆ 講義題目 ヒンドゥー教文献講読(1)</p> <p>◆ 到達目標 ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。 今学期は第11巻中盤を講読する。第11巻中盤では、パーンダヴァ五王子たちが戦死した百王子の母ガーンダーリーに直面し、父ドリタラーシュトラに対して以上に罪の意識におびえるが、ガーンダーリーは悲しみつつも、同じく息子全員が戦死した五王子たちの妻ドラウパディーを慰める。 毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%]・(○) 出席 [30%]・(○) その他(授業での貢献度) [70%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)</p> <p>その他: 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	教授 吉 水 清 孝	6	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読(2)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>今学期は、前学期に引き続き、『マハーバーラタ』第11巻後半を講読する。百王子の母ガンダーラーが仙人ヴィヤーサより天眼を授かり、むごい戦場の光景を延々と目の当たりにして慄き、最後には神の化身であるクリシュナを、息子たちの破滅を引き起こした張本人として糾弾し、呪う。</p> <p>毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜 井 宗 信	5	火	3
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyihi rnam gshag) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyihi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.				
その他： 「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	6	火	3
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続きbSod nams rtse moの『タントラ概論』の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	非常勤講師 沼田一郎	集 中 (5)		
◆ 講義題目	インド古代法研究				
◆ 到達目標	ダルマ・シャーストラ文献において、〈法〉概念が具体的にはどのような規定として現れているかを理解し、インド古代法の概要と歴史的な変遷を把握する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ダルマ・シャーストラ文献は『マヌ法典 (Manusmṛti)』以降、形式・内容ともに大きく変容するが、それは第7章「王権 (rājadharmā) 篇」と第8、9章「司法 (vyavahāra) 篇」から知ることができる。本講義では『マヌ』にいたるまでの文献史を概説し、「司法篇」のテキストを講読する。その際、カウティリヤの『実利論』や他のダルマ・シャーストラも参照して理解を深めたい。また、個々の規定の法的な意義についても考えたい。				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	渡瀬信之訳『サンスクリット原典全訳 マヌ法典』平凡社、2014年。 井狩・渡瀬訳『ヤージュニャヴァルキヤ法典』平凡社、2002年。 渡瀬信之『マヌ法典 ヒンドゥー教世界の原型』中公新書、1990年。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 吉水清孝	5	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究(1)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴェーダーンタはインドの一元論を代表する哲学思想であるが、宇宙の根源である絶対者と個人精神との関係をめぐっては様々な傾向があった。シャンカラは個人精神の中核が絶対者と全く同一であるとする急進的な一元論を説いたが、彼の Brahmasūtra 註での解説には、彼自身の思想とは必ずしも合致しない、絶対者と個人精神との間に或る種の区別を設ける場合が見られる。この傾向は絶対者を「最高我」(paramātman) という呼称で言い表す場合に顕著である。</p> <p>今学期は、シャンカラがparamātmanと個人精神との関係をどのように論じているかを検討し、シャンカラとシャンカラに先立つ伝統的ヴェーダーンタとの関係を考察する。授業ではまず先に、シャンカラがparamātmanに関係付けているウパニシャッドの章句をまとめて講読し、続いて、それを論ずる Brahmasūtra 註の各論題での論述を抜粋して講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 吉水清孝	6	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究(2)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>シャンカラが不二一元論派を確立したのち、ヴェーダーンタ学派には、より伝統的な「知行併合」の立場を守るバースカラが現れ、シャンカラの急進的な思想を批判した。バースカラが著した Brahmasūtra 註は、これまで遺漏の多い出版本が一つあるのみであったが、近年写本研究に基づいた批判的な校訂本が公にされた。</p> <p>今学期は、前期に取り上げた Brahmasūtra の諸論題をバースカラがどのように論じているのかを検討し、「最高我」(paramātman) についてのシャンカラの理解とバースカラの理解を比較する。また両人が「知行併合」について相対立する見解を論ずる Brahmasūtra 1.1.4への註釈も、可能な限り比較して検討したい。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	月	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	月	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					